

2017年2月18日（土） 於：横浜市技能文化会館

ダブルケアシンポジウム：ダブルケアしながら働くことが当たり前の社会へ
神奈川ワーカーズコレクティブ連合会・横浜国大共同ダブルケア実態調査
報告

横浜国立大学 相馬直子 nsoma@ynu.ac.jp

ダブルケア（ケアの複合化）とは何か？

- 1) 狭義：育児と介護の同時進行下におけるケア責任・負担・ニーズの複合化、複合的課題
・英国ブリストル大学山下順子氏と、2012年度～東アジア比較研究の分析概念から出発
・育児と介護の同時進行の実態や、世代内・世代間のケア複合化を問題化するために概念化
- 2) 広義：家族や親族等、親密な関係下の複数のケア関係におけるケア責任・負担・ニーズの複合化、複合的課題
・夫のケア、自分のケア、障がいを持つ兄弟のケア、非正規シングルと親のケア、障がいを持つ成人と親のケア、多文化家庭におけるケア関係 etc
・ダブルだけではなく実態、トリプルケア、etc

I. ケアの複合化の構造的要因～なぜ、いま、ケアの複合化か？

「男性稼ぎ主型家族のダブルケア」時代の終焉

- ・ダブルケアという言葉がなかった時代も、親族や家族の中には、複合的なケアは存在。男性稼ぎ主型家族の中で、家族が（嫁が）、ダブルケア責任を果たすのが「当たり前」という規範、それを前提とした制度状況だった。
- ・現在…家族・親族・地域関係の変化、介護保険制度・子育て支援制度化の状況であり、男性稼ぎ主型雇用が劣化する中で、もはや、「男性稼ぎ主型家族のダブルケア」は終焉。

1. 人口学的要因：世代内＋世代間での複合化

少子化・高齢化の同時進行

＝晩婚化・晩産化・高齢化の同時進行→育児・介護（ライフイベント）の重複可能性高まる

量的側面：

「2025年問題」としてのダブルケア問題（団塊世代の介護＋団塊ジュニア世代の育児）

「2050年問題」としてのダブルケア問題（団塊ジュニア世代の介護＋未来世代が育児）

2. 労働市場の構造要因

雇用の質の劣化：非正規化、非正規共働きの増大

若年層の非正規化、ニート問題＝親の扶養期間の長期化

女性の就業率の上昇：団塊世代：介護＋孫支援（＋子育て）＋仕事

団塊ジュニア世代以降：子育て＋介護＋仕事

男性の長時間労働、ケアと仕事の両立困難：出産・育児離職、介護離職、ダブルケア離職

3. 地域・親族ネットワークの縮小、家族機能の変容

- ・ 頼れる親族、近所の知り合いがない
- ・ 兄弟数の減少⇒介護や育児を分担できるネットワークの不在

4. 縦割り制度の構造要因

- ・ 介護・子育て両制度が縦割りで、領域横断的でないことにより、制度からこぼれ落ちるダブルケアラーが一定数存在。
- ・ ダブルケアラーの複合的負担、孤立。

Ⅱ. 「ケアの複合化」：何が問題か？

1. 「ダブルケアラー」の社会的存在が認知されていない。
 - ・ 「シングルケア」の考え方が根強い。
 - ・ ケアは女性が担うものという規範が依然として根強い。
 - ・ 男性のダブルケアラーの存在。
2. ダブルケアをしながら働き続けることが困難。ダブルケアによる雇用機会の喪失。
3. ダブルケア責任や負担が女性へ集中しがち。しかし、男性ダブルケアラーも一定数存在。
⇒孤立したダブルケアラーの存在（社会関係からの排除）
4. 介護費が次世代の人的資本投資を抑制
5. 少子化リスク
6. 複合化するケア課題に、柔軟かつスピーディーに対応できない、縦割り制度の限界

政府統計では、複合化・多様化するケア実態が把握できない

「就業構造基本調査」の狭い「介護」定義

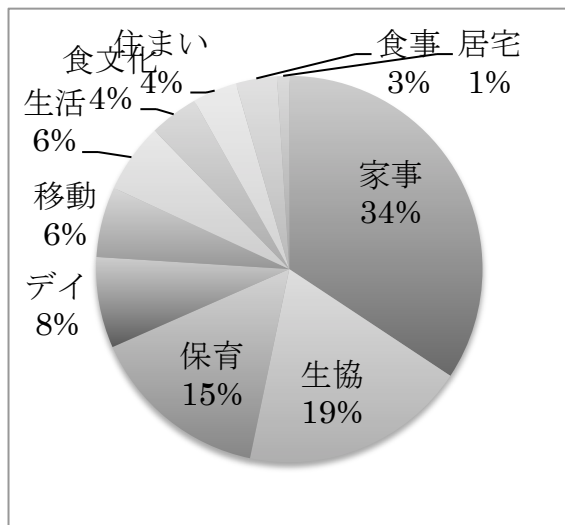
- ・ 介護とは、日常生活における入浴・着替え・トイレ・移動・食事などの際に、何らかの手助けをすること
- ・ ふだん介護しているか決められない場合は、1年間に30日以上介護している場合を「介護をしている」とみなす

本調査の「介護」「育児」定義

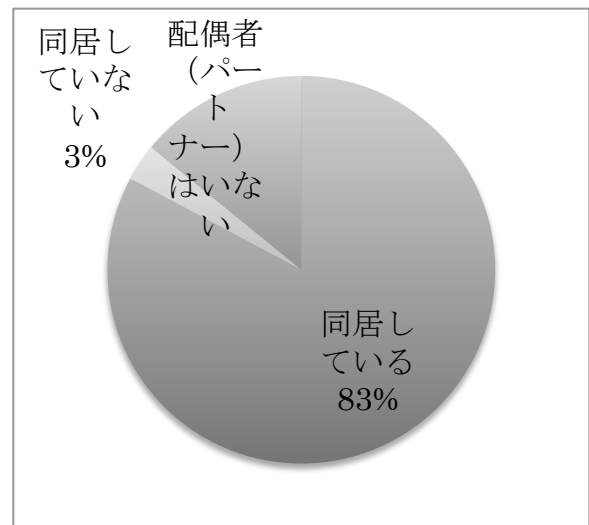
- 1) 「介護」：愚痴を聞くといった精神的なケアや買い物代行、ケアマネジャーとの連絡やサービスの調整など、広い意味で世話をする・援助することを含みます。
- 2) 「育児」：年齢や居住形態に関わらず、ケア（世話・看護・介助）が必要な子どもがいることを意味します。

→今回の調査結果へ

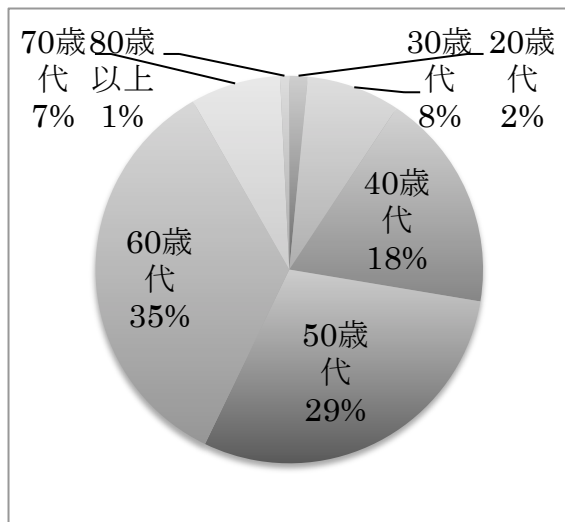
部門



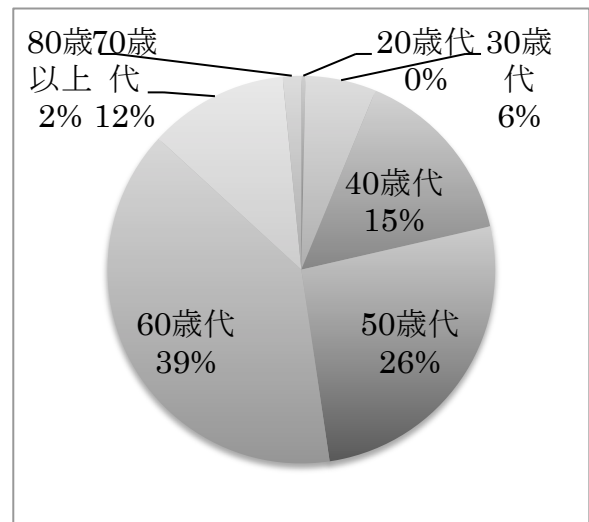
配偶者について



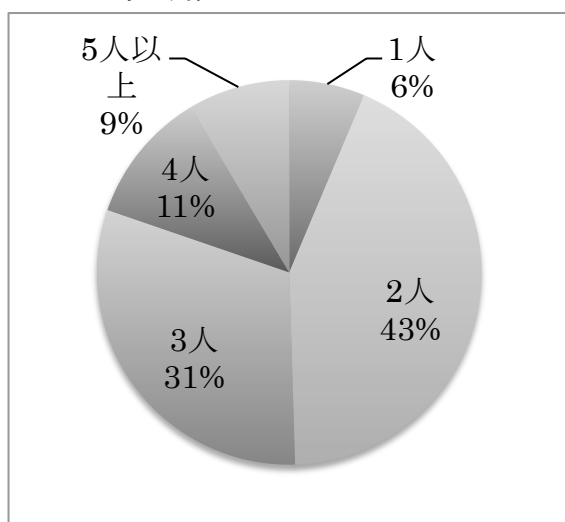
あなたの年齢



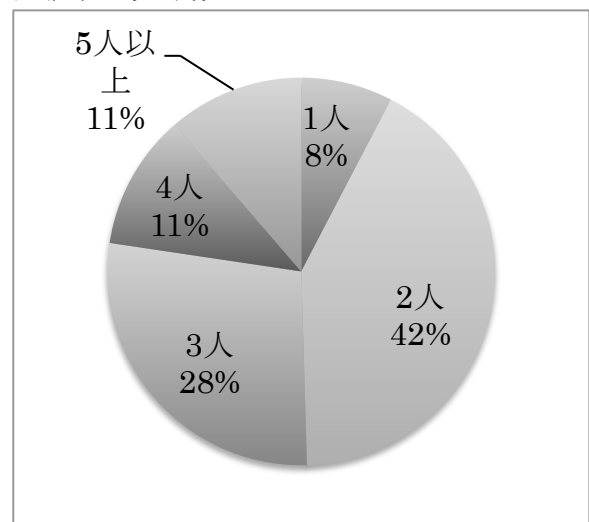
配偶者の年齢



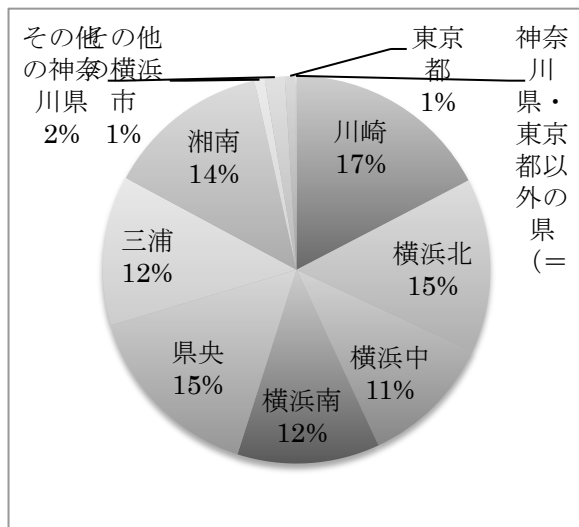
あなたの兄弟数



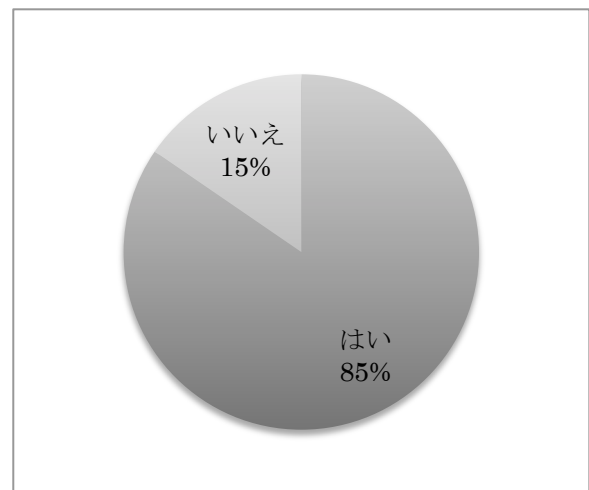
配偶者の兄弟数



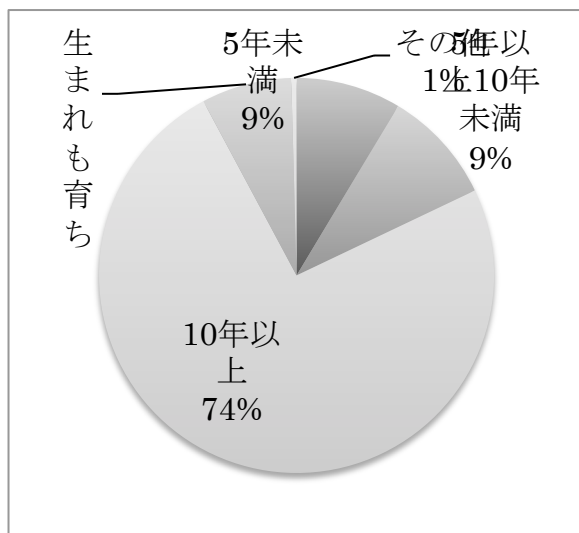
あなたの所在地



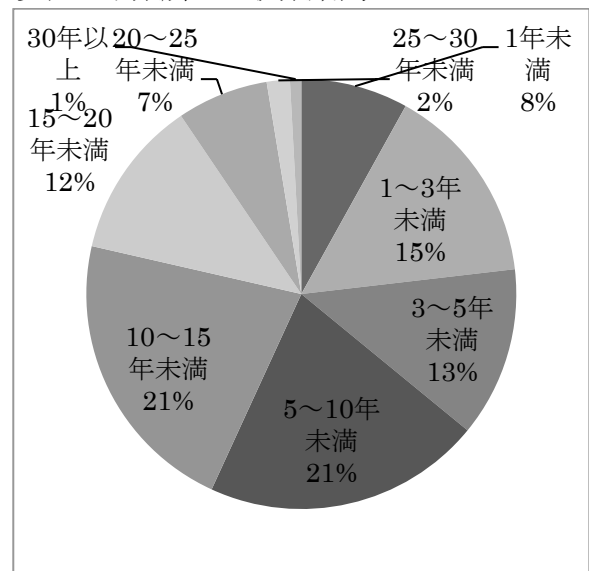
介護や育児と両立しやすい職場か



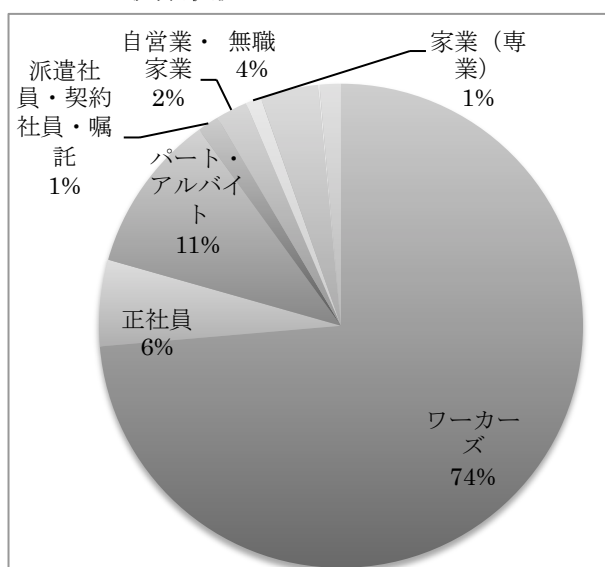
いま住んでいる地域の在住歴



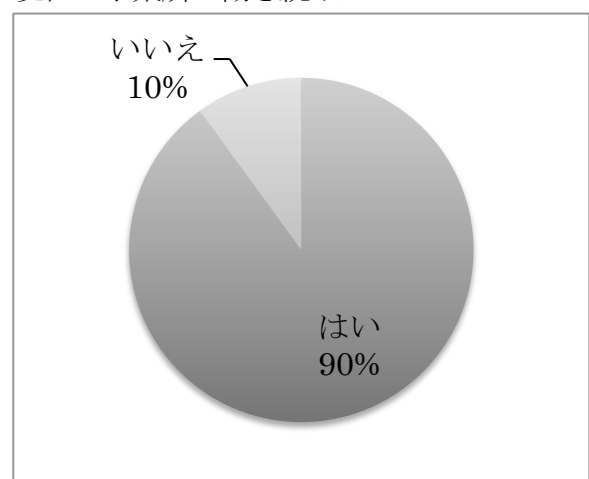
現在の事業所での就業期間



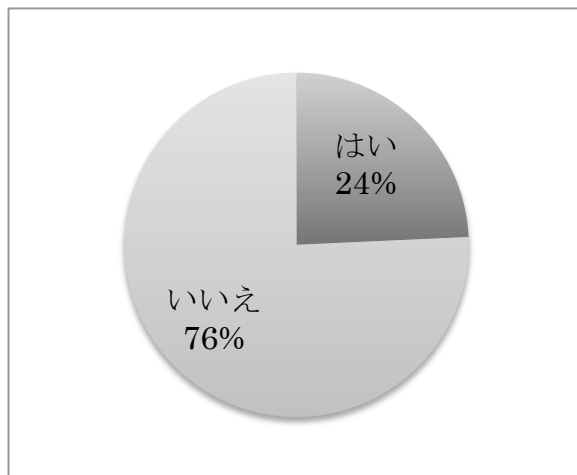
あなたの就業状況



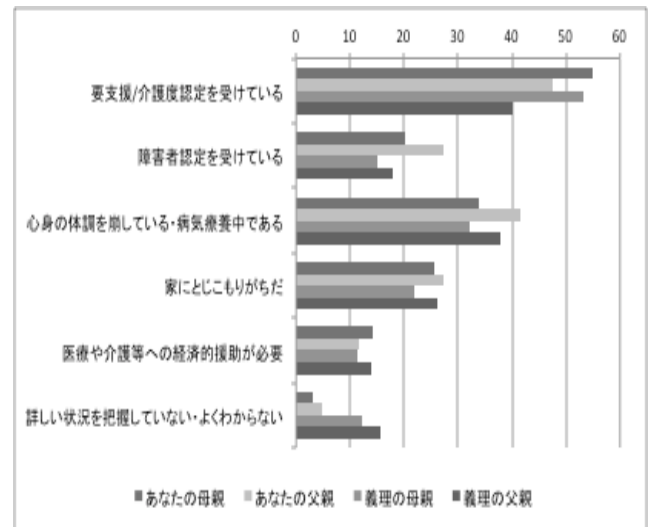
現在の事業所で働き続けたいか



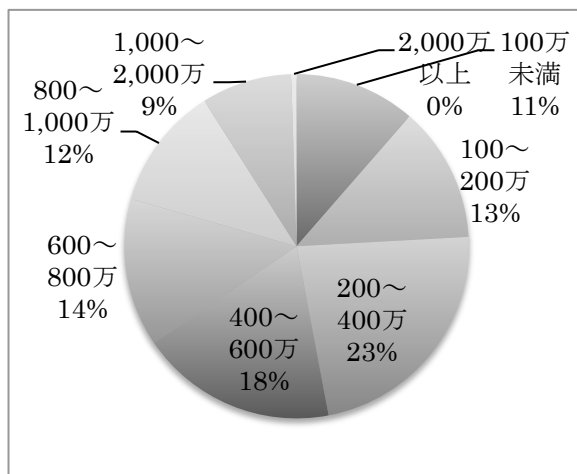
介護や育児のため仕事をやめたことがある



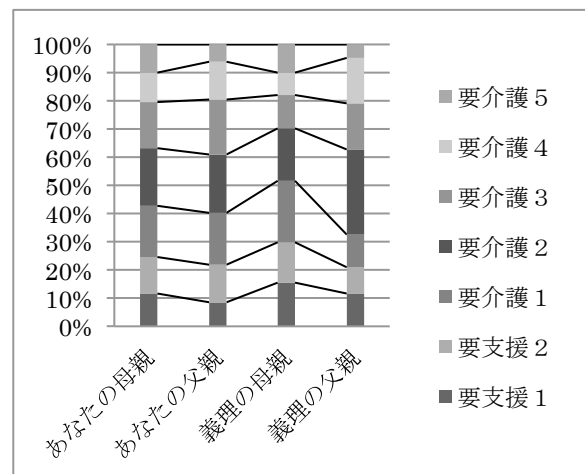
状況



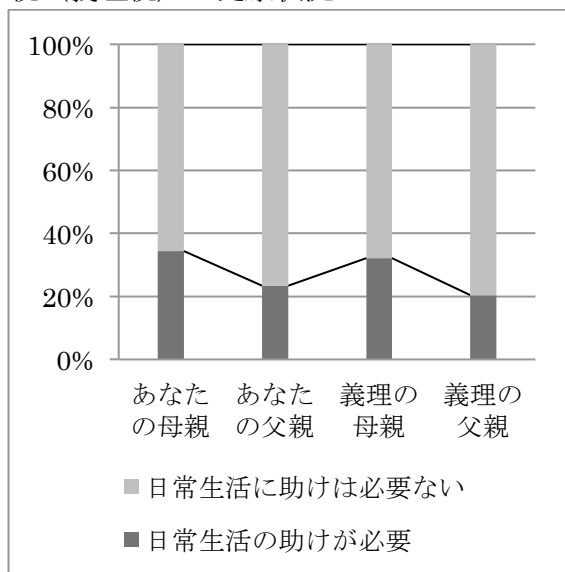
昨年の世帯年収



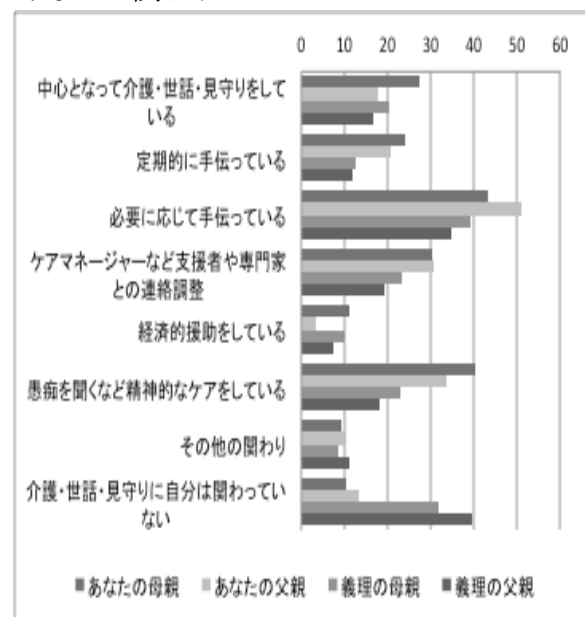
介護度



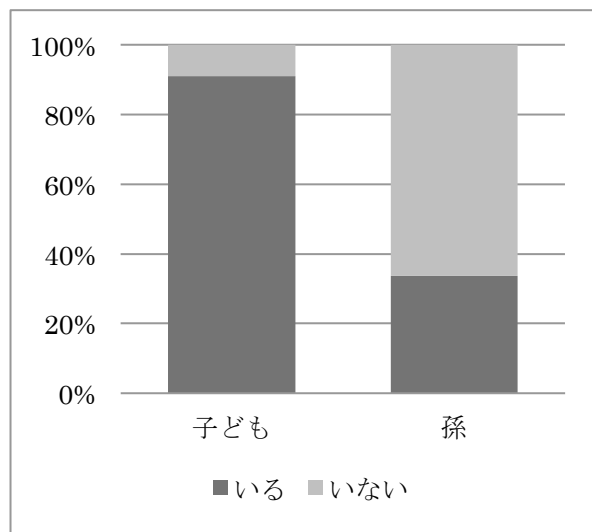
親（義理親）の健康状況



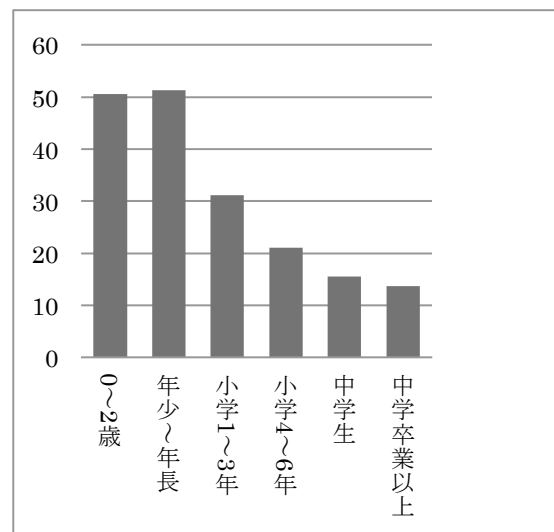
あなたの関わり



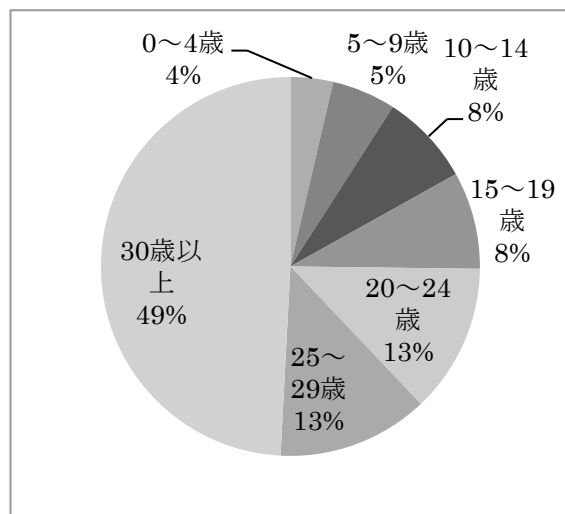
子ども・孫について



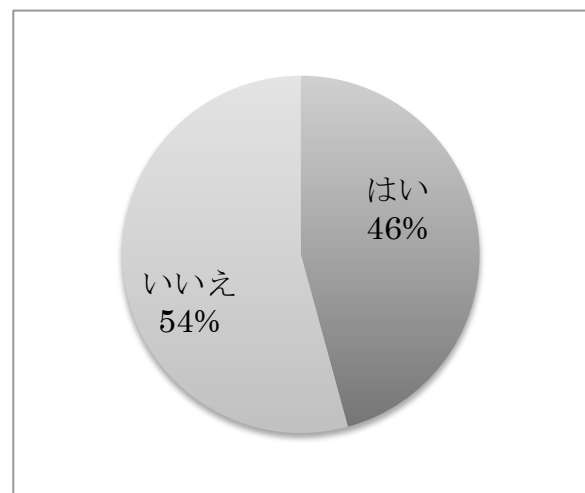
孫の年齢



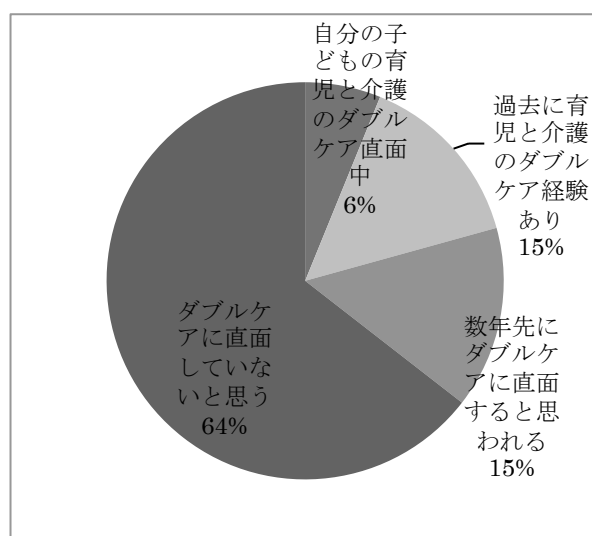
子ども（第一子）の年齢



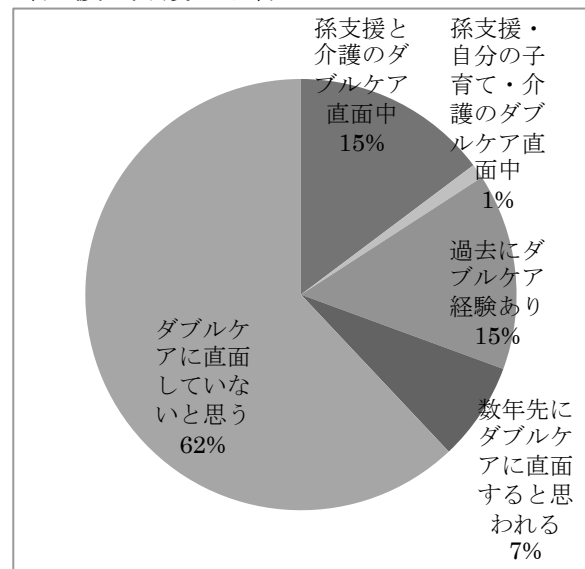
孫の世話（孫支援）に関わっているか



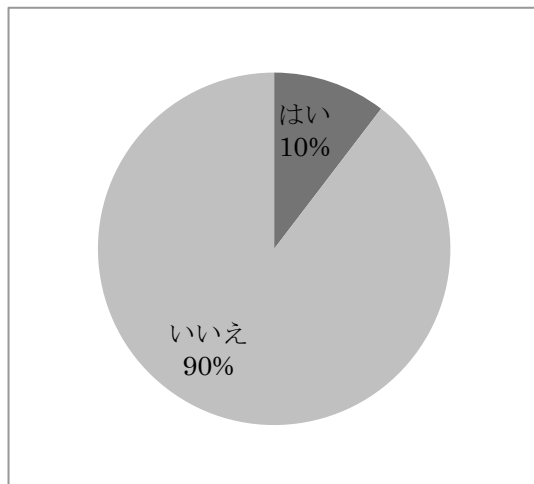
介護と子育てのダブルケア



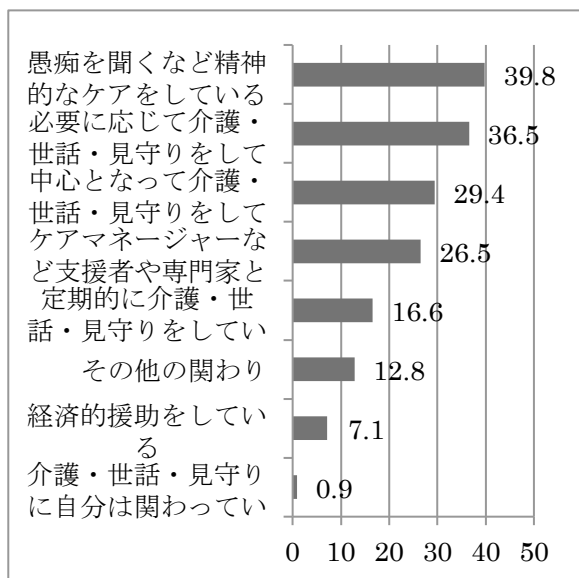
孫支援・介護・子育て



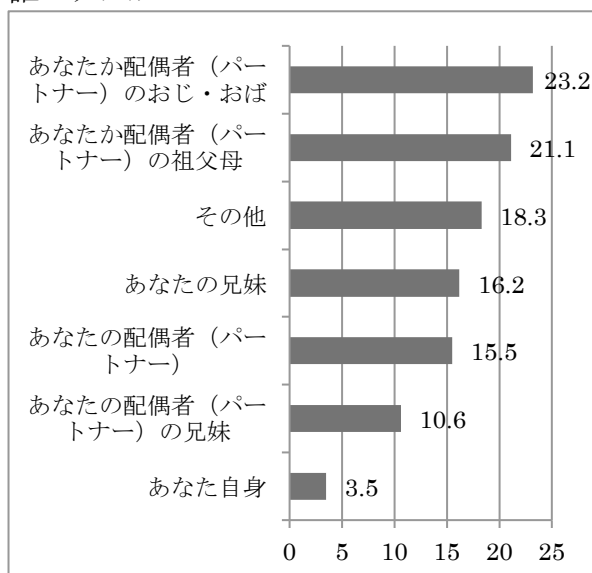
親（義理親）・子・孫以外のケア



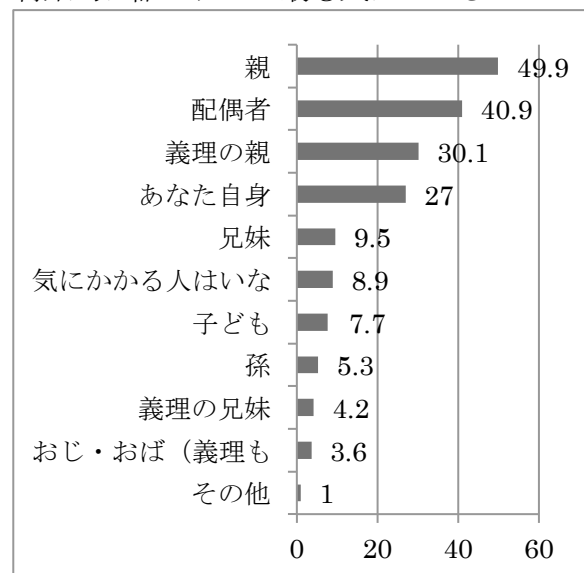
どのような形で関わっているか



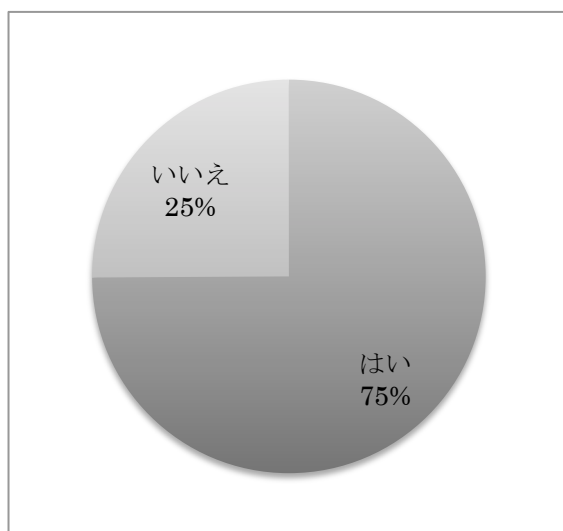
誰のケアか



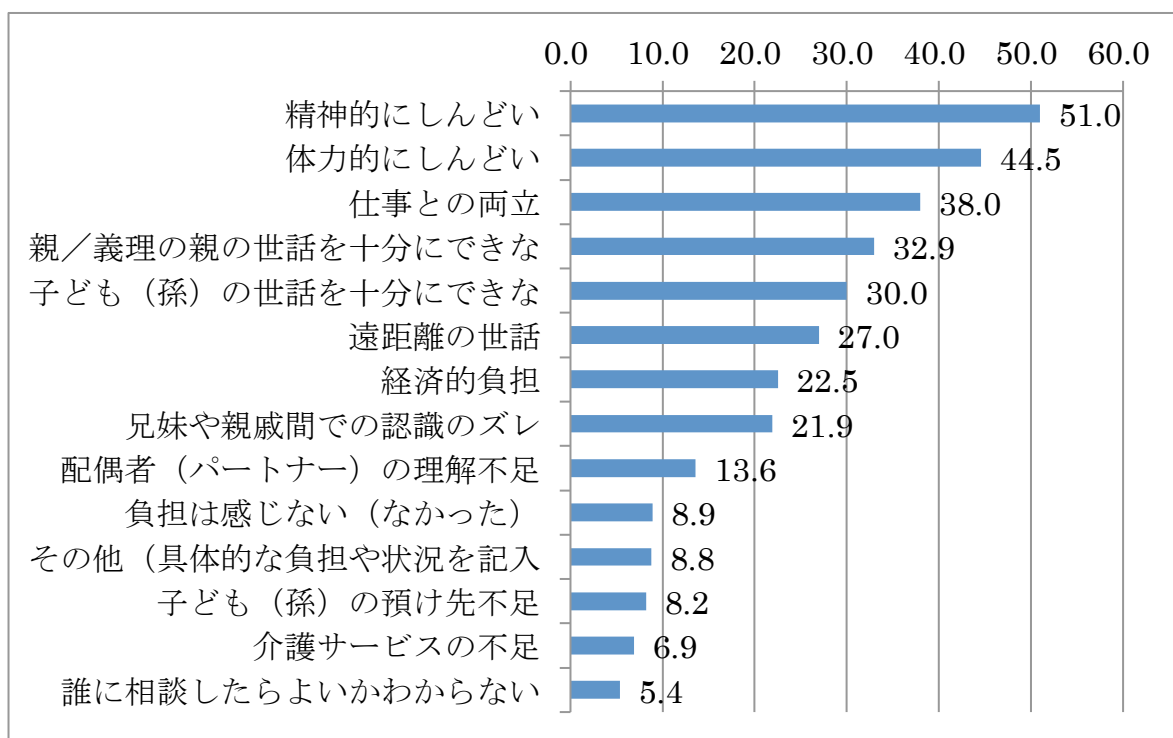
将来的に誰のケアが最も気にかかるか



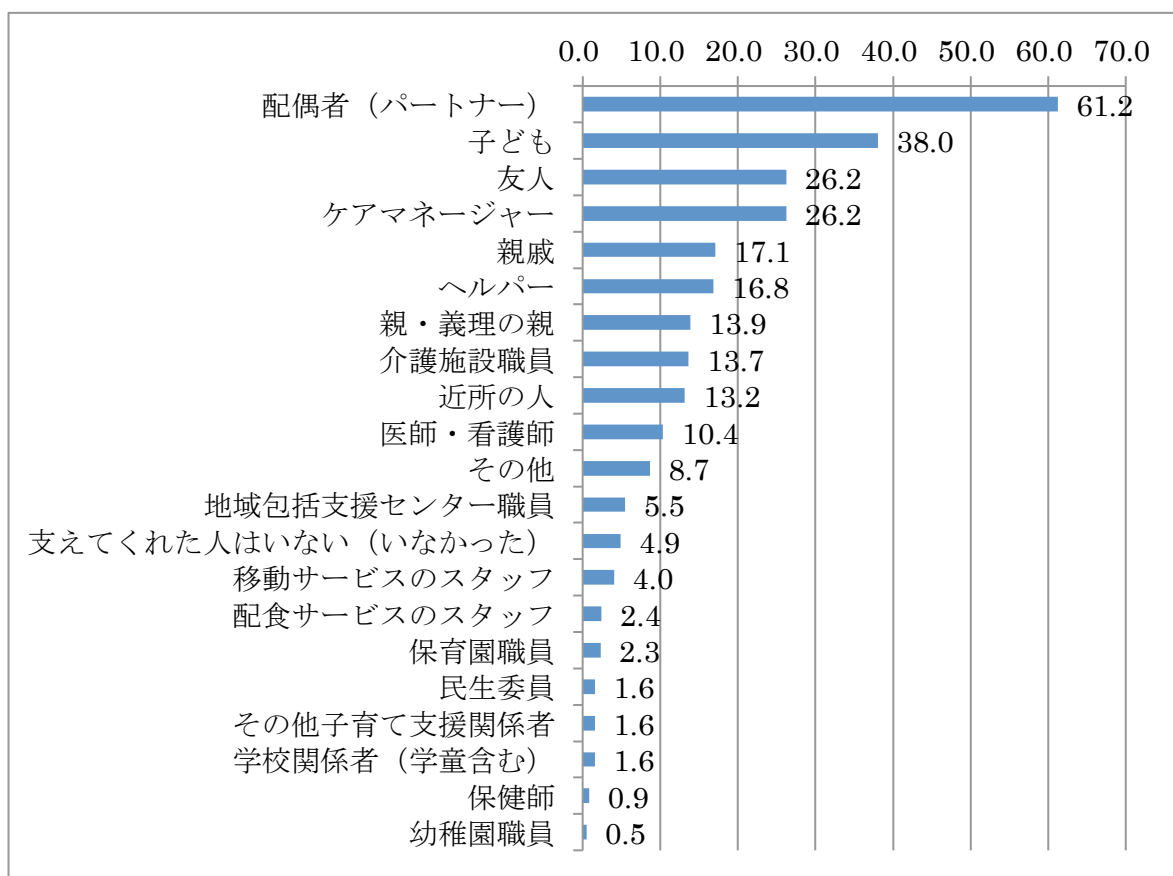
あなたがケアに関わっているか

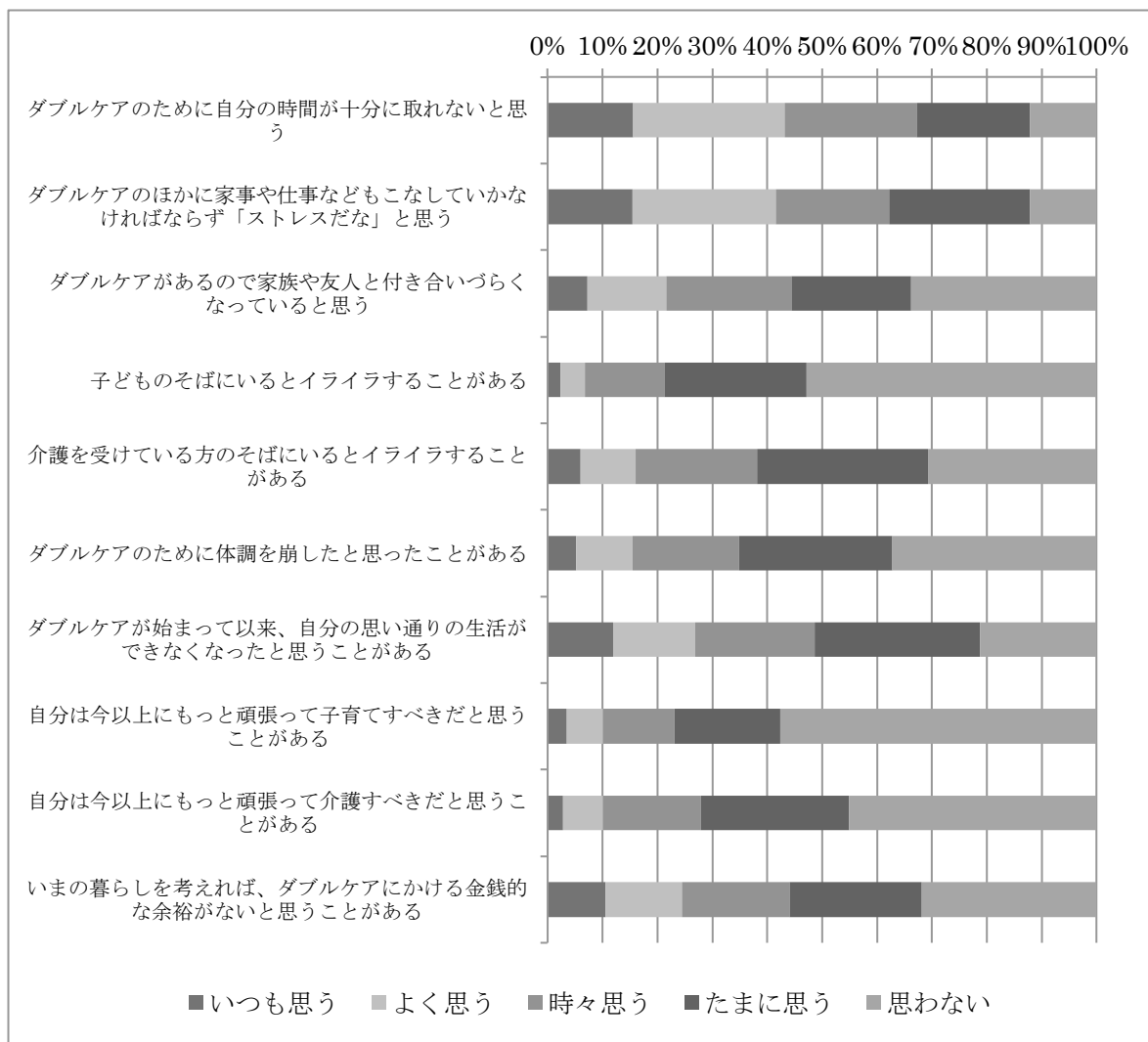


ダブルケアで何が負担か（複数回答）

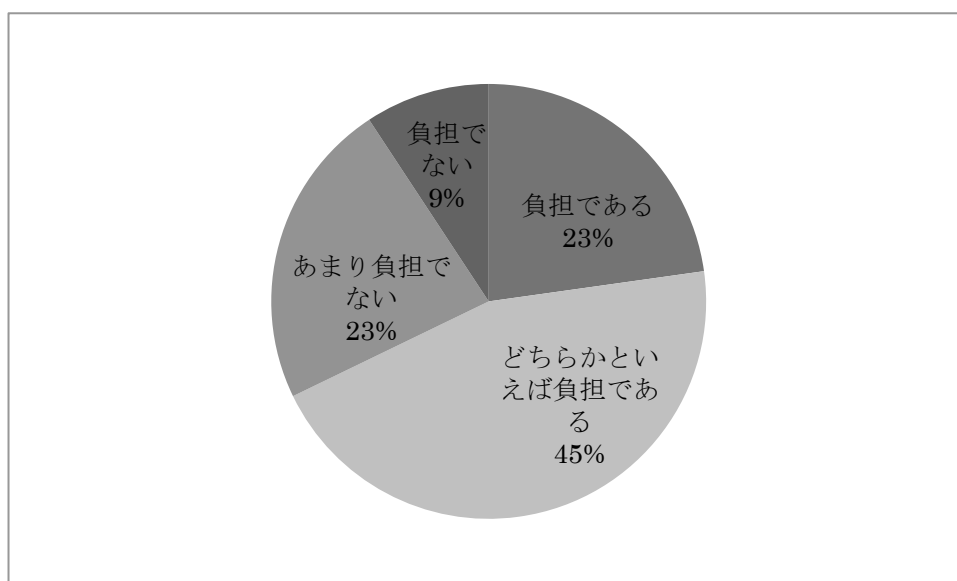


ダブルケアで大変な時、支えてくれた人は誰か（複数回答）

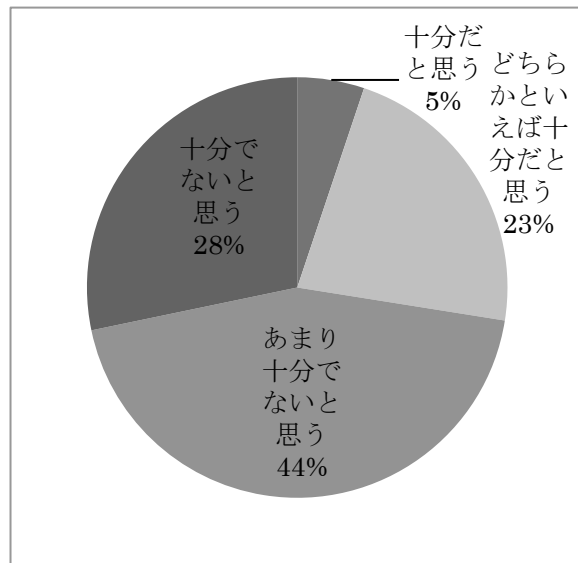




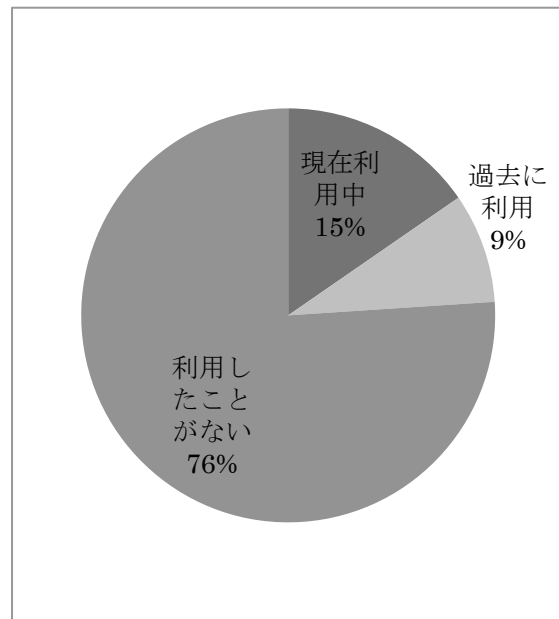
あなたのダブルケアの負担感は



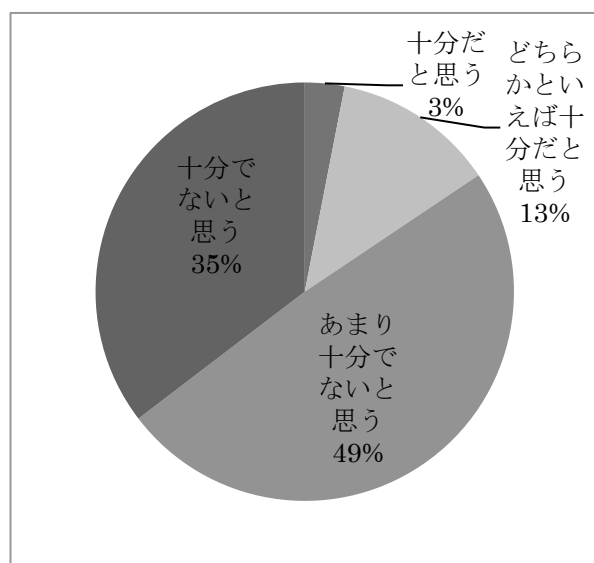
ダブルケアラーにとって公的な介護サービスは現状で十分か



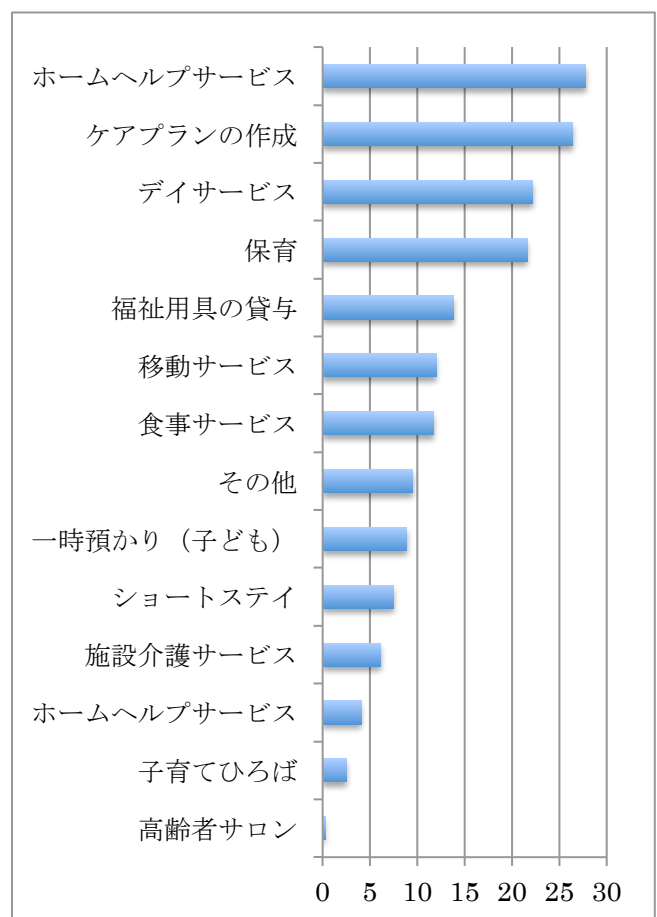
ワーカーズのサービス利用



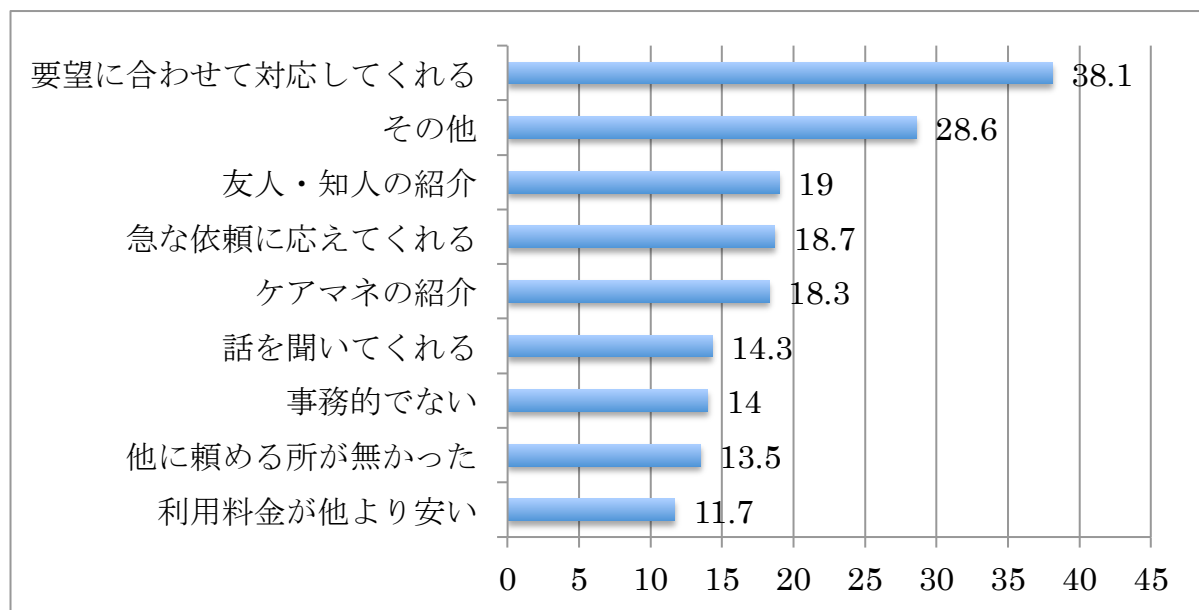
ダブルケアラーにとって公的な子育て支援サービスは現状で十分か



利用のサービス



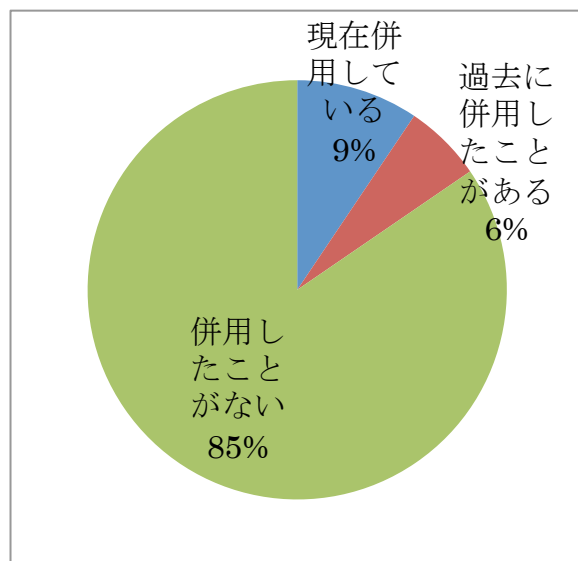
なぜワーカーズのサービスか



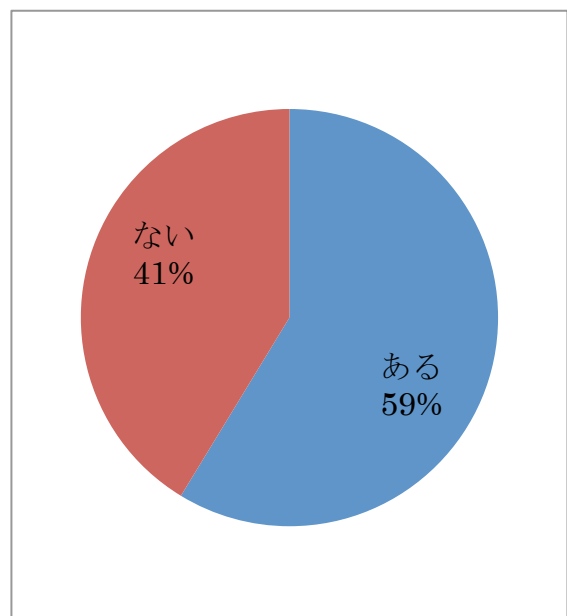
その他で回答が多かったもの

- ①関係がある（所属している、ワーカーズ関係施設・サービスを利用している）（50 件）
- ②サービスの質がいい、サービスに対してニーズがある（30 件）
- ③他のルートからの紹介・情報（23 件）
- ④通いやすい（例：近い）（20 件）
- ⑤信頼している（25 件）

ダブルケアだった時、ワーカーズによる育児・介護の両サービスを併用したことがあるか



ダブルケアの認知度



調査結果から考える

1. 孫支援・介護・仕事（ケアワーク中心）を両立している世代の実態が明らかに
 - ・ 割合の高さ →ダブルケアラーからみた「2025年問題」の内実
 - ・ 日常的にケアを必要としている親・義理親の割合が高い
 - ・ 世代間のケアリンク
 - ・ 3大負担 精神的・体力的にしんどい、仕事との両立
2. 自分のケアも含めた、複合的なケアの「気がかり」
 - ・ シングルケアの考え方からの脱却
3. ワーカーズのサービスや環境は、ダブルケアラー支援そのもの
 - ・ 訪問型ダブルケアラー支援の最前線
 - ・ 柔軟なサービス提供、ケアしながら働ける環境
 - ・ そして、居場所づくりへ
 - ・ W.Co のさらなる社会化としての「ダブルケア」
4. 政府の「地域共生社会」の基本コンセプトや政策を、ワーカーズから問い返す
 - ・ 全国各地で広がるダブルケア対策（堺市、京都府 その他）
 - ・ 厚生労働白書のどのような文脈で、「ダブルケア」が言及されたか？
 - ・ 財政難、効率化、分権化の文脈

参考:「地域 共生社会」の実現を今後の福祉改革を貫く基本コンセプトに位置づけ、まずは平成 29 年の介護保険法の法改正、30 年度・33 年度の介護・障害 福祉の報酬改定、さらには 30 年度にも予定されている生活困窮者支援制度の見直しに向けて、部局横断的に幅広く検討を行う。

5. 「磁石」としてのダブルケア:「自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」構築へ
 - ・ 複合化するケア=課題・ニーズが複雑化→多世代と多主体が協働して、どう解くか？
 - ・ 「ダブルケア」とは、複数の課題や主体を引き寄せる「磁石」。
 - ・ 多世代の当事者と、当事者に近い支援者たちと、一緒に構想・構築していく
 - ・ 当事者・多主体と目標を共有して協働をすすめる、「多世代・多主体コーディネート人材」の発掘・育成が鍵に
 - ・ 「自治型・包摂型・多世代型地域ケアシステム」構築へ向けて、W.Co の役割大
 - * 「地域住民（ダブルケアラー）による状況とニーズの定義に基づいた、子育て、介護、貧困などの領域を横断して、包摂的に、多世代にまたがるケア関係を射程にのせたケアシステム」
 - ・ 市場化するケア市場、外国人ケアワーカー問題、担い手の高齢化、人材不足→ダブルケアが当たり前の社会づくり、人材育成において、W.Co の役割大
 - ワーカーズと行政、地域包括支援センター、民間企業等との連携の可能性
 - ・ 子育て・介護のケアワークの社会経済的評価をあげる